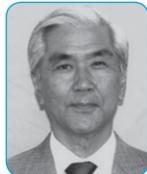


図書館・公民館は 外部委託ありきでよいのか



無党派（社民党） 釜我 健二

釜我＝市の行革推進本部では、図書館・公民館をアウトソーシング（外部委託）すべきとの強硬論ばかり目立つ。どちらも市民と職員が数十年かけて営々と築いてきた市民の財産だ。外部委託すれば、蓄積されたノウハウは全く失われる。議論の手續きも雑だし、教育の視点からの真剣な検討もなされていない。市長が代った今こそ、外部委託ありきの考えを見直すべきだ。
市長＝丁寧に再検討を加えて精査をしたい。
教育長＝教育委員会として主体的に判断し、行革推進本部と担当のやり取りを行っていく。図書館については1～2ヶ月中に実施方針をまとめる。
釜我＝これを議論した行革推進本部の会議記録は1年以上も決裁されず、市民へ公表できない状況だった。これは「情報を積極的かつ迅速に公表すべき」と定めている自治基本条例違反だ。
政策部長＝そういう意味では私どもの不手際だ。
釜我＝自治基本条例は、行政が市民に情報を積極的に公開し、市民と協力してより良い市政をめざすものだ。今こそ市民のためになることは勇断をもって前市政の考え方を見直すべきだ。
市長＝教育委員会としっかりやり取りをしながら、慎重に検討してまいりたい。
教育長＝教育委員会としても慎重に検討したい。
どうなったのか？ 嘱託職員等の処遇改善
釜我＝3月議会で「9月議会で嘱託職員等の処遇改善方針を示す」と約束したのに、今もって何ら報告もないが、進行管理はしていないのか。
市長＝嘱託職員等の処遇はしっかり考慮すべきと考える。早急に対応してまいりたい。

保存樹林地及び 元指定寄附地の樹林を切るな



無党派（無所属） 甲斐 よしと

問) 新町寄附地を含め長年、保存樹林地指定してきた地に、行政が開発行為に準ずる幅6mで120mの道路をつくることは天に唾を吐く行為だ。市の「緑の基本計画」に反する行為をなさろうとしているか否かをYesかNoで答えよ。
福祉保健部長) 緑の保存、保全は必要なことだと思います。Yes、Noでお答えするのは難しいかなと思っています。
問) 昨年、新町樹林地に小さいビニールハウスが緊急避難的という表現で移設された。暫定的にしる、事業を継続しなければならないことは承知するが、戸倉通りより樹林地へ120mもの舗装道路建設は全く必要外であり「緑の基本計画」「環境基本計画」を踏みにじる。矛盾するか否か市長、答えて下さい。(市長挙手はなく)
樋口副市長) 矛盾するかどうかですが、樹林地の寄附された経過を含めると樹林地は大事が基本です。新たな就労支援事業の調整の中から樹林地の一部を残しながら活用していくとした。
問) 行政計画に矛盾するか否かだ。副市長の資格ない。樹林地内に市が120mもの道路を入れたら、片側の私有保存樹林地が即宅地化可能になってしまい保護樹林地政策に100%背く。
樋口副市長) 私どもは天に唾を吐くような事業を議会にお示ししたつもりはない。
問) 樹木を沢山切り倒すということが、計画に矛盾していないなら、国分寺は計画をいくら作っても計画行政ができないということだ。
新・いじめの認定基準通りにカウントしていない現場を学校長に示した。基準遵守を求めた。

財政再建は市の基本命題！ 借金に頼るな！



政策市民会議国分寺 木村 徳

木村＝ぶんバスについて、北町ルート、万葉けやきルートの試行運行を9月に始めると発表していたが延期となった。原因は何か。
都市建設部長＝試行運行でも本運行でも同じ認識で検討しなければいけなかったのに認識の甘さがあった。進行管理ができていなかった。
木村＝担当は狭い視野でしか検討してこなかった結果だ。では、改めていつを目途とするのか。
都市建設部長＝北町ルートは26年中に試行運行したい。
副市長＝他ルートは違う検討要素もあり、時期は未確定だが、できる限り早く実現したい。
木村＝再開発に関わり、特定建築者の住友不動産が企画提案書の中で鉄道関連工事を6ヶ月半短縮するとして業者選定時に高得点を得たにも関わらず、スケジュールが遅れている。
都市開発部長＝私の進行管理の不手際等で、6ヶ月半の短縮は不可能である。
副市長＝私も進行管理に加わり、住友不動産との協力も強化し、仕事を進捗させる。
木村＝財政再建は、中長期的には、今後公共施設建替の際、施設の複合化で運用する。短期的には自転車駐輪場は利用者の6割にあたる市外利用者と市民の間に金額差を設けて歳入効果を見込む。ぶんバス料金も同様だ。上記のようなことを一例として、市長の認識は。
市長＝指摘のように、安定した歳入を得るために色々な手法を使う必要がある。市の財産を活用して財政需要を賄うと同時に、長期的安定的財政運営をしていく。

一般会計決算議案に対する討論の要旨

12月4日の本会議で平成24年度一般会計決算議案に対する表決に先だち、各党派等から賛成・反対の討論が行われました。内容は、各党派等が一定のスペース内で自由にまとめたものを討論の順番で掲載しています。

市民サービスの向上と 予算の適正執行を！



自民党新政クラブ 楠井 まこと（所属6名・賛成）

※議長は表決に参加していません。

星野前市長が国分寺市の将来を鑑み編成された収支均衡型予算でありました。予算を再精査し、聖域なく改革に踏み込み、経常収支比率を平成23年度比較で2ポイント改善させた事は、一定評価できると思います。厳しい財政事情の折、国分寺駅北口再開発の大幅な前進、市内保育園の増設により、特に西部地域において、待機児童が大幅に減少した事、小・中学校のエアコン整備等、市民サービスに対しても一定成果があった事は評価いたします。しかし決算特別委員会が結果2回も開催されるという異例の事態を招いたテープ反訳委託料に係る支出において、監査委員監査の根幹を揺るがす答弁がなされました。結果、監査委員の皆様が多大な御迷惑をおかけしたのみならず、事務的経費が嵩んだ事は大変遺憾です。特に追加審査を依頼された監査委員の胸中を考えれば、このような監査委員を軽視するかの行為は二度と起こってはならない。追加審査の総括意見を十分踏まえ、関わっ

た職員の猛省を強く求めます。監査委員のご指摘の「今後は全庁的に財務会計上の例規等の遵守を再度徹底し、適正な事務執行がなされるよう強く要望するものである」を真摯に受けとめ、実行して頂きたい。決算については、監査委員からの審査意見等に照らし合わせ、数点の指摘事項はあるものの、適正に執行されているものと判断します。井澤新市長が就任されて間もなくであります。信賞必罰の方針のもと、今回の件に関しては原因を徹底的に追及し、かかわった職員の責任を明確にするとともに、再教育を実施し、再発防止に努めていただきたいと思います。以上を以って、賛成の討論と致します。

緊張感ある事務執行で 信頼回復へ努力すべき



公明党 さの 久美子（所属4名・反対）

平成24年度国分寺市一般会計歳入歳出決算の認定について不認定の立場から討論する。
平成24年度の決算は、星野前市長のもと、基本目標として収支均衡型予算編成の実現、経常収支比率80%台達成という方針が示されていた。経常収支比率に関しては、改善されたとはいえ

80%台という目標にはほど遠く、井澤新市長においては、厳しい財政運営ではあるが、新たな明確な目標を掲げ、進めていただきたい。
決算の不認定という不名誉な事態が連続している主な事由は職員の事務執行のあり方である。今決算委員会においてもその点が散見された。第一に決算書の参考資料となる事務報告書の記載ミス。その数の多さは注意力散漫な作業であり、公の重要な資料にも拘わらず、議会からの指摘で初めて気付く事態は、その事業評価の正当性すらも疑わざるを得ない。業務のあり方を今一度見直す必要がある。第二に決算審査にも拘わらず、認識不足による答弁保留の多さは議事進行に大きく影響を及ぼした。改めて職員の自覚と意識の向上を促すものである。個別事業として、緊急雇用創出事業は積算の甘さから多額の都補助金を返還。予算の積算根拠の精度を上げ、今後活かすよう指摘する。利用者が当初よりゼロにも拘わらず、改善、検討の様子が見受けられない事業もあり、業務改善を求める。
今回、担当課長が事実と違う認識に基づき監査委員に説明したことが発覚。そこから異例の追加監査、2度の決算審査となった。議会軽視ともいえるこの行為の重大さを認識し、今後議会との信頼回復に努め、より一層の緊張感を持ち、市民に納得いただける事務執行を求める。